

10/5~6 バリアフリー対応ノウハウ習得研修開催
安心安全な旅行をサポート

ホテル日の出岬で、日本UD観光協会が企画主催する「バリアフリー対応ノウハウ習得研修」が開催され、延べ45人が参加しました。初日は「観光介助士初級講座」が行われ、ユニバーサル観光の現状と課題、接遇についての講話のほか、さまざまな障害の疑似体験をするワークショップが行われました。2日目は、入浴場におけるバリアフリーノウハウ習得研修が行われ、高齢者などが入浴のときに感じる不安やそれに対する配慮などについて貸し切り展望風呂を活用しながら学びました。



↑視覚障害の体験と介助の仕方について学ぶ参加者
(写真提供：観光協会)

10/16 第28回みどりと親しむ町民の集い
雄武の緑をはぐくむ

この日、げんきの森で28回目となる「みどりと親しむ町民の集い」が実施され、約40人の町民および関係者が参加しました。この活動は、雄武町を緑豊かな住みよい町として発展させることを誓い合い、健やかな環境を次世代に残し、緑に対する意識の高揚を図ることを目的に開催されています。今回は、げんきの森の遊歩道付近の樹木と周囲の植物の生育環境を整える枝打ちを行いました。その後、遊歩道を散策しながらオホーツク総合振興局西部森林室の職員から樹木の種類や特徴について解説があり、参加者は森林に対する理解を深めていました。



↑枝打ちの様子

↓ビーチコーミングの様子



10/9 ビーチコーミング in 雄武
漂着物の謎

雄武町図書館「雄図びあ」で、紋別市から道立オホーツク流氷科学センター学芸員の桑原尚司氏を講師に招き、海岸などに打ち上げられた漂着物を対象に収集、観察などをするビーチコーミングが行われました。日本の海流の種類や特徴、マイクロプラスチックなどの海ごみの話を聞いた後、栄丘地区の浜に移動し、どのような漂着物が落ちているのか浜辺を散策しました。浜辺には、日本のごみのほかにも外国製のプラスチック容器や酒瓶などが海を越えて雄武の浜辺に漂着しており、参加者は海ごみは身近な問題であると再認識していました。

↓給食を食べる共栄小学校の児童



10/20 町内小中学校への給食食材無償提供
地元食材を給食に

子どもたちに地元の海産物を味わってもらおうと、雄武漁業協同組合から給食センターに雄武町産の秋鮭が無償提供されました。この日、給食センターでは焼き鮭として調理し、町内小中学校の児童、生徒に振舞われました。取材で訪問した共栄小学校の児童は「とてもおいしかった」「いつでも食べたい」など、美味しそうに給食を頬張っていました。あたたかいご提供をありがとうございます。



まちのできごと

9/30 秋の全国交通安全運動～旗の波運動～
交通事故死ゼロを目指して

秋の全国交通安全運動の最終日に合わせて「旗の波運動」が早朝の役場庁舎前で実施されました。町職員や町建設業協会の会員など約70人が参加し、国道沿いで横断幕や交通安全を訴える緑の旗を振り、運転者へ交通事故防止を訴えました。

石井町長は「現在、目標として掲げている交通事故死ゼロ2000日が12月13日で達成される見込みとなっていることから、交通事故を起こさない、遭わないよう啓発していきたい」と話しました。



↑旗の波運動の様子

10/2 オムイ杯パークゴルフ大会
地域を超えたスポーツ交流

この日、宮の森公園パークゴルフ場にて3年ぶりとなる第29回オムイ杯パークゴルフ大会が開催され、町内外から約240人のパークゴルフプレイヤーが集まりました。秋空に軽快な打球音が響く中、久しぶりに再会する仲間や同じグループのメンバーと談笑をする姿も見られ、幅広い年代の参加者同士でパークゴルフを楽しみ、親睦を深めていました。

参加者には、参加賞として雄武町産秋鮭が一尾ずつ配られ、また、上位入賞者には雄武町産の海産物などが景品として手渡され、参加者からは喜びの声があがっていました。



↑オムイ杯パークゴルフ大会の様子

10/4 体験型出前授業を実施
雄武町の教育振興に寄与

この日、役場会議室で株式会社西村組に対し感謝状の贈呈が行われました。

この表彰は、株式会社西村組が8月26日に沢木・雄武小学校の3年生、4年生の児童を対象に社会貢献活動の一環として、元稲府漁港の工事現場の見学やドローン体験、重機操作体験などを行う体験型出前授業を無償で実施いただいたことによるものです。

参加した児童は「初めて重機に乗って操作した」「消波ブロックの重さが想像していたよりも重いことに驚いた」と話してくれました。あたたかいご協力をありがとうございます。



↑石井町長(左)と感謝状を手にする株式会社西村組堀一久主任(右)